

奈良県

モデル圏域 奈良市圏域

奈良市の精神保健福祉体制

奈良市圏域では、市の審議会である奈良市精神保健福祉連絡協議会（以下、連絡協議会）を中心に、奈良市地域自立支援協議会と連携しながら、奈良市の精神保健福祉体制を構築してきた。今年度、その体制が奈良市障害福祉計画に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」に位置づけられるようになった。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
<p>1. 精神障害者の支援ができる事業所を増やす。 地域移行・地域定着支援事業の事業所を増やす。</p>	<p>地域移行グループで地域移行の事例検討ワーキングを開始し、精神障害者の支援を他事業所に伝える取組みを開始する。</p>
<p>2. 地域移行・地域定着支援事業の申請者が出てくる体制を院内につくる。</p>	<p>地域移行を利用して退院したケースを支援して、院内スタッフ向けに体験談発表会を開催した。</p>
<p>3.</p>	

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

奈良市精神保健福祉連絡協議会(市の審議会)を中心にして、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムが構築できている。また、地域包括ケアシステムの事業内容に即した取組みが始まっている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
		行政側	関係機関・住民等
精神障害者の支援ができる事業所を増やす。 地域移行・地域定着支援事業の事業所を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい指定事業所がケースを受けられるようにする。 ・地域移行の事例検討を行い、そこからでてくる課題に取り組む。 ・事業所説明会で、事例検討から出た支援方法を伝える。 	行政側	会議の場の設定。
		医療側	事例検討に参加する。
		事業者側	自立支援協議会で事例検討をする。
		関係機関・住民等	
地域移行・地域定着支援事業の申請者が出てくる体制を院内につくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・院内の研修会の企画や開催に退院支援委員も参加してもらい検討する。 ・地域移行で退院した人の体験談をはぐくみ会で発表する。 	行政側	会議の場の設定。
		医療側	退院支援委員の参加を促す。
		事業者側	退院者の体験談発表の支援をする。
		関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値	目標値(H30)
①新しい指定事業所がケースを受けられる	支援のすそ野を広げる。	0	圏域2か所の病院で1例ずつ
②院内の地域移行の体制をつくる。	保健所が病院での取組を今年度終結するため。		
③			

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

【定期的な情報交換の場】

- 精神保健福祉連絡会・・・年2回
- 地域移行体制整備事業（はぐくみ会）の準備会・・・年6回
- 地域移行グループ（地域自立支援協議会/地域生活支援部会）・・・年6回
- 地域移行グループの各ワーキング

【病院からの課題】

- 福祉サービス利用者の計画相談を受けてくれる事業所が少ない。
- 一定地域移行が進むと、ADLに問題があったり、高齢であったり、介護保険関係と連携が必要になるケースが残る。
- 地域移行だけでなく、通常の退院支援でも、住宅問題を抱えているケースが多い。
- 家族などの高齢化により支援者が少なくなり、入院が長期化してしまうことがある。

4 現時点での課題・悩み

- 精神障害者の支援ができる事業所の拡大、取組みで実践していることを聞きたい。
- 事業所拡大にむけて、地域移行グループで地域移行の事例検討開始したが、その運営の仕方や事例検討のやり方、参加事業所を増やす取組みへの意見を聞きたい。
- 地域移行で住宅問題への取組みを聞きたい。
- 地域移行グループで長期入院者の実態把握を行うため患者調査を検討しており、そのような取組みを実施した自治体の情報や、調査項目について意見がほしい。